

大学等名	日本国際学園大学
プログラム名	日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「情報基礎A (2単位)」、「情報と社会 (2単位)」、「AI・データサイエンス概論 (2単位)」の3科目6単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報基礎A	2	○		○					
情報と社会	2	○		○					
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報基礎A	2	○	○	○					
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報基礎A	2	○		○					
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI・データサイエンス概論	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「AI・データサイエンス概論」(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「AI・データサイエンス概論」(1回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「情報基礎A」(10回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報と社会」(9回目) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「AI・データサイエンス概論」(6回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・データ作成(ビッグデータとアナフォーション)「AI・データサイエンス概論」(2回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「AI・データサイエンス概論」(2回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「AI・データサイエンス概論」(4回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「AI・データサイエンス概論」(4回目) ・マルチモーダル(言語、画像、音声 など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「情報基礎A」(10回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「AI・データサイエンス概論」(5回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「情報基礎A」(12回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「AI・データサイエンス概論」(11回目)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報基礎A」(2回目) ・サイバーセキュリティ「AI・データサイエンス概論」(12回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「AI・データサイエンス概論」(8回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ「AI・データサイエンス概論」(8回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「AI・データサイエンス概論」(9回目)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「AI・データサイエンス概論」(10回目) ・データの集計(和、平均)「AI・データサイエンス概論」(10回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 284人 女性 96人 (合計 380人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
経営情報学部・ビジネスデザイン学科	380	200	800	121	0											121	15%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	380	200	800	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	121	15%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	15%	令和7年度予定	30%	令和8年度予定	50%
令和9年度予定	80%	令和10年度予定	95%	収容定員(名)	800

具体的な計画

本教育プログラムの目的達成のため、既に開講している授業科目を中心として、本学データサイエンス教育プログラム委員会で検討を重ね、本学在籍学生を含めて広く数理・データサイエンス・AIを理解し、知識を重ねられるようプログラム開発を実施している。

令和6年度には、1年次必修科目として「情報と社会」、「情報基礎A」を開講し、全学生に履修させ、本教育プログラムにおいて2年次以降に選択必修科目として「AI・データサイエンス概論」を積極的に履修するよう推奨した。

令和7年度には、本学が設定する9履修モデルにおいてカリキュラムツリーで核となる科目の1つに位置づけ、特に履修するよう指導していくこととしている。

令和8年度以降は、本学入学者の全てが本教育プログラムを履修し、可能な限り多くの学生が修了できるよう、学内でのプログラムの認知度を向上させるようガイダンス等を通じ啓発することとしている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は、1学部1学科制であり、希望する学生は全員が受講可能な科目構成としている。

修了要件となる科目のうち、「情報基礎A」、「情報と社会」は必修科目となっており、「AI・データサイエンス概論」は選択必修科目であるが、卒業要件科目として重要な位置づけを行い、ガイダンスにおいて履修するよう啓発、指導することとしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

年度当初に各学年で実施しているオリエンテーション期間中に実施するガイダンス等で、本プログラムを周知するとともに、学生全員に本教育プログラムの目的や意義を理解できるよう啓発チラシを配布することで、プログラム履修の意義を説明する。

また、「キャンパス・アドバイザー制度」を活用した個別の履修相談や情報系教員による本教育プログラムの周知のみでなく、全教員による本教育プログラム対象科目の履修を勧められるように教員へ周知し、協力を依頼する。

また、シラバスにも本教育プログラムへの参加を勧めるよう記載し、本教育プログラムの対象科目への履修登録を勧める。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、クラスの担任を兼ねるキャンパスアドバイザーが、個々の学生についての履修相談や学生生活についての相談に応じ、きめ細かく個別指導を実施している。この個別指導において、数理・データサイエンス・AI分野に興味・関心を持った学生のみではなく全ての学生に対して積極的に履修を促す指導体制を構築している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学の専任教員は、授業時間外にオフィスアワーを設定しており、その時間に学生から質問を受け付けることができるようにしている。また、授業においても積極的に学生の疑問や質問に答えるようにしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

データサイエンス教育プログラム委員会

(責任者名) 山島 一浩

(役職名) 自己点検責任者(教授・国際センター長)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは、令和6年度に開設され、同年度に開講された本教育プログラムの修了要件科目2科目4単位(「情報基礎A」「情報と社会」)については、令和6年度入学生のうち121名が履修し、「情報基礎A」で108人、「情報と社会」で109人が単位修得済み(単位修得率90%)であり、令和7年度中に残り1科目2単位(「AI・データサイエンス概論」)を修得し、本プログラムの修了要件を満たすことが見込まれている。</p> <p>令和6年度においては、対象学生へ本教育プログラムを開講した趣旨が浸透しているとは言えないが、対象授業科目が必修科目であることと相まって、ほぼ対象者全てが履修しおり、単位修得率90%前後と非常に高くなっている。令和6年度には、学内の履修登録システムを通じて、本教育プログラムについての周知を図ったが、十分周知できていなかった。次年度以降は、オリエンテーションでの本教育プログラムの紹介・PRを実施し、在籍学生の履修率向上を図る。</p> <p>また、データサイエンス教育プログラム委員会で、定期的にプログラムの履修・修得状況を確認・分析する体制を整え、自己点検や改善に取り組み、学生の履修を支援していく。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムは、2年間をかけて履修し、単位を修得するよう設計されている。令和6年度終了の時点では、多くの学生が2科目4単位(「情報基礎A」「情報と社会」)を修得しており、プログラムの目的は十分に満たされていると考える。</p> <p>本教育プログラムの修了要件科目での修得すべき内容、目標は次のとおりである。</p> <p>「情報基礎A」では、情報に関する基本的な概念や知識、情報技術の基礎を学ぶ入門的な科目で、基本的な情報リテラシーの習得として、コンピュータの基本的な操作やインターネットの利用、情報セキュリティの基礎知識、情報モラル・情報倫理を学び、身につけてほしい知識やスキルを修得させる。</p> <p>「情報と社会」では、情報技術が社会のさまざまな側面に与える影響や、情報社会における課題について考察する科目で、情報社会の構造と特性の理解、情報技術が社会の各分野に与える影響の分析、情報社会における倫理的・法的課題の考察を求める。これにより、情報リテラシーや批判的思考力の向上にもつながることが期待される。</p> <p>「AI・データサイエンス概論」は、AIとデータサイエンスの基本的な概念、技術、応用について学ぶ入門的な科目で、AIとデータサイエンスの基本的な概念の理解、主要な技術の概要の理解、倫理的・社会的な課題の認識、AIとデータサイエンスに対する興味関心を喚起する。</p>
学生アンケート等を通じた学生の理解度	<p>本教育プログラムに関する学生アンケートは実施していないため、本教育プログラムとしての学生の理解度については十分評価しえないが、毎学期実施している「授業アンケート」により確認を行った結果、概ね90%の学生から、「この授業で必要な／ためになる／新しい知識・技術を得られた」との回答があった。この結果より、大半の学生は十分に内容を理解していると考えられる。</p> <p>「情報基礎A」においては、「分かりやすく説明、解説してくれた」「先生の説明はいいねいにはっきりしている」「授業のスピードがよかった」「自分でワードなどを使って実践することで、素早くスキルを身につけられた」「資料がわかりやすい」「映像など生徒が分かりやすく説明されていた」「パソコンの実技の授業などで、一人一人が分かるように丁寧に説明してくれた」「パソコンの使い方の基礎からソフトの応用的な活用方法まで人に合わせてどんどん上のレベルに行けた」との意見がみられた。</p> <p>「情報と社会」においては、「先生の話し方が聞き取りやすくて良かった」「新しい情報に関する知識を知れた」「周り協力して課題を進められた」「グループワークで先生自ら振り分けたり、みんなと進めてくれるところ」などの意見が見られた。</p> <p>令和7年度以降は、本教育プログラム独自の学生アンケートを実施し、学生の理解度向上につなげていきたい。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本学における学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度に関する具体的な取組について、公式ウェブサイトや公開情報からは直接的な言及は見つけられない。しかし、関連する情報からいくつかの側面を推測することができた。</p> <p>学生満足度調査の実施と活用について、本学は、学生の授業改善アンケートを年に2回実施している。アンケート結果は、学生満足度を客観的に把握し、教務委員会において共有され、授業改善に活用されている。年度末には、全学生を対象とした学生生活アンケートも実施されている。これらは、学生の大学生生活全般に対する満足度や意見を把握し、大学運営や教育内容の改善に役立てることを目的としており、間接的に、在学生の満足度が高いことは後輩への推奨度に繋がる可能性がある。また、在学生の声の発信では、オープンキャンパスで、在学生在が自身の学生生活について直接話す機会が設けられている。</p> <p>また、国際交流プログラムの充実を図っている。本学は、国際交流活動を積極的に展開しており、海外研修や留学プログラムを提供している。留学生と日本人学生が交流できるイベントなども開催されている。国際的な学習環境や交流機会は、学生にとって魅力的な要素となり、後輩への推奨に繋がる可能性がある。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>オリエンテーションでの履修の推奨や関連科目での周知を行い、本教育プログラムの履修者数および履修率の向上を目指している。履修者数向上に向けた計画として、魅力的なカリキュラムを提供し、学生の興味関心や将来のキャリア目標に合致した多様な科目を用意することで、履修意欲を高める。また、アクティブラーニングを導入し、学生が主体的に学ぶ参加型の授業を増やすことで、学習効果を高め、履修のモチベーションを維持する。</p> <p>さらに、きめ細やかな指導を通じて、学生一人ひとりの学習状況を把握し、履修をサポートすると共に、全学教育・キャリア教育センターが実施するキャリア支援と連携し、早期からのキャリア教育やインターンシップを通じて、本教育プログラム履修の目的意識を高める。</p> <p>履修率向上に向けては、キャンパスアドバイザーによるきめ細かい履修指導を実施し、新入生のみではなく、在学生に対しても、適切な履修計画の立て方や科目の選択方法等を丁寧に指導し、授業外での学習相談や補習を実施して学生の理解度を高め、授業への参加を促している。さらに時間や場所にとらわれない学習機会を提供し、学生の学習継続を支援している。また、出席状況や成績が低迷している学生に対しては早期に相談や指導を行い、履修放棄を防ぐように取り組んでいる。</p> <p>また、社会においてAIやデータの重要性が増していることに鑑み、今後、必修化に向けた検討を進める。大学の魅力を積極的に発信し、入学希望者数を増やすことで、結果的に履修者数を増加させることを目指す。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本教育プログラム修了者の卒業は、早くても令和9年度となるため、進路・活躍状況、企業などの評価を現時点で得ることは困難である。本学では、修了認定者について適切に管理する体制を整備し、卒業後の本教育プログラム修了者の就職先や企業での活躍状況を照会・評価する計画である。</p> <p>本学卒業生の進路については、多様な分野への就職が見られ、大学が公表している過去3年間の主な内定先を見ると、金融、商社、情報通信、不動産、教育、サービス、医療・介護、公務など、幅広い業種に就職している。これは、大学が複数の教育モデルを提供し、多様なキャリアパスを支援していることの表れと考えられる。地域貢献への意識が高い学生もあり、つくば市役所等の地元自治体や地域の企業への就職が見られる。</p> <p>また、大学院へ進学し、より専門的な知識や研究を深める意欲を持つ学生もいる。</p> <p>本学では、キャリア支援教育にも積極的に取り組んでおり、企業が求める人材育成について、企業から評価されるようさらなる取り組みを進めている。また、国際性をも重視しており、グローバルな人材育成を目指し国際的な視野を持つ人材を求める企業から評価されるよう取り組みを進めている。</p> <p>本学の教育プログラムは令和6年度に開設であるため、産業界からの評価を得るための修了者を輩出できていない。そのためデータサイエンス教育プログラム委員会を中心に、データサイエンスやAI、情報セキュリティ等のリテラシー教育について、本教育プログラムに期待することや実務に必要な知識・スキルに関する情報の収集を継続的に実施することとしている。</p> <p>産業界が重視する要素と大学の取組として、実践的なスキル・知識の習得が挙げられるが、本学では、「実学教育」を重視し、ビジネス、情報、デザインなど、社会のニーズに合わせた教育モデルを提供し、産業界の期待に応えることができるものと考えている。これらを大学の取り組みとして、アクティブラーニングや少人数教育を通じて、学生の主体的な学びや思考力を育成する。</p> <p>本学では、社会のニーズや産業界の動向を的確に捉えたカリキュラムであるか、学生が座学だけでなく、実践的な経験を通じてスキルを習得できる機会が提供されているか、グローバル化に対応できる人材育成が行われているか、学生の主体性や問題解決能力、コミュニケーション能力といった汎用性の高い能力が育成されているか、卒業生が入社後すぐに活躍できる基礎力と応用力を持っているかなどについて検討を積極的に進め、その成果を社会に示していくことで、産業界からの評価を高めるよう取り組んでいく。</p> <p>今後、企業との連携の強化、卒業生の追跡調査、産業界からのフィードバックの収集を続け、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見を反映させていく。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「全学的なリテラシー教育としての導入」、「専門分野との接続による動機付け」、「体験型学習と実践的な応用の重視」、「文理融合的なアプローチ」などを重視し、本学の設定する履修モデルでの専門分野と結びつくことで、学生は自身の興味のある領域において数理・データサイエンス・AIがどのように役立つのかを具体的に理解し、主体的に学ぶ「楽しさ」を見出す可能性がある。異なる学問分野との接点を示すことで、数理・データサイエンス・AIの幅広い可能性の理解を促し、「学ぶことの意義」を深めるとともに、新たな知的好奇心を刺激し、「学ぶ楽しさ」につなげていく計画である。</p> <p>また、一部の科目では、外部講師招聘の制度を活用し、AI分野の専門家等による講義を取り入れることにより、多角的な視点から数理・データサイエンス・AIがどのように社会において活用されているか、理解を促していく。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学では、内容・水準を維持・向上させつつ、より「分かりやすい」授業を実現するための取組や仕組みについて、社会の変化や生成AI等の技術発展を踏まえた教育内容の見直しをおこなっている。</p> <p>「分かりやすい」授業に向けた取り組みとして、一方的な講義だけでなく、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ケーススタディ、反転授業など、学生が主体的に参加する形式の授業を積極的に導入している。これにより、理解度を高め、記憶への定着を促す。学生が自ら考え、発言し、議論する過程で疑問点が明確になり、教員や他の学生からのフィードバックを通じて理解を深めている。さらに、アクティブラーニングの推進のため、チューター・アシスタントを一部の科目において活用し、学生の学修状況を適切に把握しながら授業を進めている。</p> <p>また、視覚的な教材の活用として、図、グラフ、イラスト、動画、アニメーションなど、多様な視覚的な教材を効果的に活用し、抽象的な概念や複雑な情報を分かりやすく提示するよう、各教員が工夫している。さらに、多様な表現方法と具体例の提示については、同じ内容でも複数の表現方法で説明したり、具体的な事例を豊富に提示したりすることで、様々な学習スタイルを持つ学生に対応し、理解を深めている。抽象的な説明だけでなく、具体的な例を挙げることで、学習内容が現実社会とどのように結びついているのかを理解できるよう工夫している。</p>

日本国際学園大学 データサイエンス教育プログラム開講科目一覧（令和6年度）

科 目 名	単位数	クラス	担 当 教 員	開講年次	開 講 学 期
情 報 基 礎 A	2	8	高藤 清美 山島 一浩 パンタ ポーラ 宗像 諭 丸山 雅貴	1年次	春学期
情 報 と 社 会	2	4	谷本 茂明 宗像 諭 丸山 雅貴	1年次 1年次	秋学期 春学期
AI・データサイエンス概論 (令和7年度新設)	2	3	倉橋 節也 丸山 雅貴	2年次 2年次	秋学期 春学期・秋学期

※シラバスは、各授業科目毎に作成されており、各クラス共通です・

授業科目名 情報基礎A④ (21300501)
担当教員名 <small>むなかたとし</small> 宗像 諭
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 前期
単位数 2単位
授業形態 講義・実習
履修年次（履修開始可能年次） 1年
曜日時限 月曜2時限

授業の到達目標

【到達目標】

- 1：速度は十分でないものの、タッチタイピングが行え、自ら文書が作成できる。
- 2：PCの基本操作をすることができ、また操作に関して説明できる。
- 3：文書作成ソフトを活用して、書式やレイアウトの文章を作成できる。
- 4：日商PC検定試験（文書作成）3級の課題を一部解くことができる。
- 5：次世代のソフト（生成AIなど）の活用方法を理解することができる。

【履修目標】

- 1：タッチタイピングを、文章作成に支障ない速さで行えることができ、基本的なソフトは使用することができる。
- 2：文書作成ソフトを活用して、様々な書式や効果的なレイアウトの文章を作成でき、プレゼンテーションなどの場で示すレベルに仕上げられる。
- 3：企業実務に必要なIT・ネットワーク知識や技術を説明でき、自己の力でトラブルシューティングができる
- 4：日商PC検定試験（文書作成）3級の取得できる程度の課題正答率になる。
- 5：次世代のソフト（生成AIなど）を活用して、ビジネステキストなどを作成することができる。

事前・事後学習

【事前学習】 事前に示されたテーマや学習範囲を理解し、基礎的な知識・スキルを身につけておくことが望ましい。(2時間程度)

- ・今までに学んだ教科書やテキスト、参考文献などに目を通して、概要を理解しておく
- ・講義で扱うソフトに対する基本的な知識を有しておく
- ・作成課題などの提示に対して、ソフトやスキルを準備しておく

【事後学習】 講義を通じて得られた知識・スキルなどを用いて、課題解決に結びつくような自分なりの考えを示す。(3時間程度)

- ・講義中で共有した知識やスキルを自分なりに活用できるようにする
- ・自分なりの考えを元に、与えられた課題に対して、作業を行い、作品を上げることができ
- ・自分及び他者の考え方を共有し、レポートやプレゼンテーションなどで示せるようにする

授業概要

- ・正しいタッチタイピングを身につけ、実社会で要求される様々な日本語文書の基礎知識および作成技能を習得する。
- ・ワープロソフトを使う上で必要となる、IT・ネットワークに関する知識や技術を学習する。
- ・実習に使用するワープロソフトはMicrosoft社のWordとし、授業内容に即した課題（テキストの練習問題やプリントで指示）を出すので演習を行う。
- ・近年、急速にAI（人工知能）を活用するシステムが増えており、情報技術の進化とともにスキルや知識を習得し、今まで以上に有益に活用することが望ましい。
- ・本講義では、急速に発展する情報化社会におけるスキルや知識を理解し、AIを活用したソフトやスキルの習得を目指していく。

履修条件

- 1：現在までに高校課程において「情報Ⅰ」の授業を履修した経験がある者が望ましい。
- 2：情報Ⅰの履修経験の有無にかかわらず、興味や関心を持ってテーマに臨む者が望ましい。
- 3：情報基礎Aの学びを通じて、現代の社会や将来につながる課題意識を持つ者が望ましい。
- 4：一般教養や基本スキルとして、情報基礎Aを学ぶことの意義を持つ者が望ましい。

人材育成のためのキーワード

自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル,マネジメントセンス,デザイン力

アクティブラーニングの要素

課題解決型,グループワーク,プレゼンテーション,実習

実務家教員による講義の有無

有

対象資格

高等学校教諭一種免許状（情報）,上級情報処理士,上級ビジネス実務士,実践キャリア実務士,上級ビジネス実務士(国際ビジネス),上級ビジネス実務士(サービス実務)

※資格対象科目は入学年度で異なるため、便覧で資格カリキュラムを必ず確認して下さい。

授業ナンバリング

NN1108

科目等履修生・授業公開受入可否

受入可

授業計画

回数	授業計画
1回	情報基礎Aのガイダンス・シラバス確認 ～ デジタルネイティブ世代として ～
2回	IT技術の要素・日常的に使用されるソフトウェアへの理解 ～ Windowsやオフィスなどの基礎知識と理解、情報セキュリティの理解 ～
3回	情報機器への理解 ～ 情報機器の構造理解、インターネットのの構成についての理解 ～
4回	文書作成 1・Wordで文字入力の基本（日本語かな漢字変換、難読文字入力、特殊記号）、日本語入力練習 ～ Wordの基本操作1（文字の修飾、配置、均等割付、段落、箇条書き、インデント、タブ）～
5回	文書作成 2 ～ Wordの基本操作2（表の作成と編集）～
6回	文書作成 3 ～ Wordの基本操作3（図形の作成と編集）～
7回	文書作成 4 ～ ビジネス文書の種類と基本形式（社内・社外文書）～
8回	文書作成 5 ～ ビジネス文書の作成（案内状、企画書、依頼文書など）～
9回	モバイル等で使用されるソフトウェアへの理解 ～ モバイル等で使用されているソフトウェアの基礎知識と理解～
10回	生成AIの活用と可能性 1 ～ ChatGPTの入門、活用方法～
11回	生成AIの活用と可能性 2 ～ ChatGPTを用いた業務知識とスキル～
12回	生成AIの活用と可能性 3 ～ AI関連ソフトを用いた課題作成（チームプロジェクト、個別プロジェクト可）～
13回	情報関連ソフトを用いた課題発表 ～ 講義全体のまとめと個人課題の発表等～

評価方法

- ・ 授業参加時の活動（平常点）40%
- ・ 授業後における課題（課題点）30%
- ・ 学期末試験（学業点）またはレポート（評価点）30%

フィードバック方法

- ・ 授業後に示される課題に対する自分なりの考えに対するアドバイス
- ・ 授業中に行われるワークショップやディスカッションに対する総合的なアドバイス
- ・ 学期末試験に対するコメント

テキスト

『よくわかるマスター 日商PC検定試験 文書作成3級 公式テキスト&問題集 Word 2019/2016対応』FOM出版

参考文献

- ・ 『日商PC検定試験文書作成3級完全マスター』FOM出版
- ・ 『日商PC検定試験文書作成・データ活用・プレゼン資料作成3級知識科目公式問題集』FOM出版
- ・ 『日商PC検定試験知識科目公式テキスト ネット社会のデジタル仕事術』廣済堂出版
- ・ 講義で用いる資料
- ・ 高校課程の「情報Ⅰ」の教科書など

備考

- ・ 講義だけでなく、ワークショップやディスカッションなどの活動が多くあります。主体的に参加してください。
- ・ 知識の集約だけでなく、知識の活用をメインにします。考える意識を持って参加してください。
- ・ 授業計画は、履修者数や進度によって変わる可能性があります。

授業科目名 情報と社会② (23304702)
担当教員名 丸山雅貴
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 前期
単位数 2単位
授業形態 講義・実習
履修年次（履修開始可能年次） 1年
曜日時限 月曜4時限

授業の到達目標

【到達目標】 IT分野の学びにおけるストラジ系およびマネジメント系の理解ができ、また自分の知識として活用でき、他者へも共有し、説明することができる
【履修目標】 どのような業種・職種でも、ビジネスを継続させるためにはICTと経営全般に関する総合的知識が不可欠であるため、基礎的な社会構造を理解するとともにストラジ系の知識を体系的に理解できる

- 1：現代では、情報通信技術（以下、ICT）が隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいてもICTなくして成立しないため、情報と社会の関係性を理解できる。
- 2：本講義では、事務系・技術系、文系・理系を問わず、ICTの基礎知識と経営全般に関する総合的知識を修得することを目指す。
- 3：到達目標を達成するため、経済産業省主催情報処理技術者試験・ITパスポート試験で取り扱う内容のうち、ストラジ系（経営全般）およびマネジメント系（IT管理）の分野を中心に学んでいく。
- 4：本講義の履修を通して、ストラテン系・マネジメント系の基本的な知識を習得し、現代のビジネス社会がどのように成り立っているかを理解する。
- 5：IT分野を中心としたビジネス管理の考え方について理解し、説明できることを目標とし、ビジネスマインドを高め、スタートアップ企業をマネジメントすることができる視点を養っていく。

事前・事後学習

【事前学習】 事前に示されたテーマや学習範囲を理解し、基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。(2時間程度)
・今までに学んだ教科書やテキスト、参考文献などに目を通して、概要を理解しておく

【事後学習】 講義を通じて得られた知識などを用いて、課題解決に結びつくような自分なりの考えを示す。(3時間程度)
・講義中で共有した知識や他者の意見を自分なりにまとめる
・自分なりの考えを元に、与えられた課題に対しての解決策を示す
・自分及び他者の考え方を共有し、レポートやプレゼンテーションなどで示せるようにする

授業概要

- ・ 社会人として備えておくべき、情報通信技術（ICT）に関する共通的な基礎知識と、企業等における業務を遂行するために必要な経営全般に関する総合的知識を修得する。
- ・ 企業における担当業務を理解し、その業務における問題の把握及び必要な解決を図る力を養う。
- ・ 安全に情報収集や活用を行うことができるように、ネット上のリテラシーを理解する。
- ・ 担当業務において、業務内容の分析やシステム化の支援を行うことができ、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoTなど）や新しい手法（アジャイルなど）の活用を推進できるようにする。
- ・ 企業活動や関連業務の知識を持ち、問題把握及び必要な解決を図るために、システマ的な考え方や論理的な思考力で、スタートアップ企業のマネジメントに関する知識を身につける。

履修条件

- 1：現在までに高校課程での情報または現代社会・地理のいずれかの授業を履修した経験がある者が望ましい。
- 2：情報知識の有無にかかわらず、興味や関心を持ってテーマに臨む者が望ましい。
- 3：情報と社会の講義を通じて、現在と将来につながる自分なりの課題意識を持つ者が望ましい。
- 4：情報と社会の講義を通じて、自らの将来における社会経済活動に結びつける意欲を持つ者が望ましい。
- 5：本講義を通じて、社会全体の情報リテラシーを高め、自らが率先して情報倫理を遵守する者が望ましい。

人材育成のためのキーワード

自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,言語運用力,情報スキル,マネジメントセンス,デザイン力

アクティブラーニングの要素

課題解決型,グループワーク,プレゼンテーション,実習

実務家教員による講義の有無

有

対象資格

高等学校教諭一種免許状（情報）

※資格対象科目は入学年度で異なるため、便覧で資格カリキュラムを必ず確認して下さい。

授業ナンバリング

NN1111

科目等履修生・授業公開受入可否

受入可

授業計画

回数	授業計画
1回	オリエンテーション・ガイダンス ～ 情報技術が社会に与えた影響 ～
2回	現代の経済市場と情報社会 1 ～ 現代の資本主義経済市場を理解する ～
3回	現代の経済市場と情報社会 2 ～ 現代の資本主義経済市場が引き起こす社会問題 ～
4回	現代の経済市場と情報社会 3 ～ 企業の社会的使命 ～
5回	企業における法務と情報保護 1 ～ 企業の法務責任・情報管理責任 ～
6回	企業における法務と情報保護 2 ～ 企業の法務責任・情報管理責任 ～
7回	起業と経営 1 ～ 起業するために求められる能力とは？ ～
8回	起業と経営 2 ～ ビジョン・ミッション・バリューとは？ ～
9回	起業と経営 3 ～ SWOT・3Cでビジネスモデルを考える～
10回	経営者視点を身に付ける 1 ～ 経営者視点で企業を分析する ～
11回	経営者視点を身に付ける 2 ～ 経営者視点で組織を分析する ～
12回	スタートアップ（起業）をしよう 1 ～ 自分の企業を立ち上げていこう ～
13回	スタートアップ（起業）をしよう 2 ～ キャズムを超えて企業を発展させるには？ ～

評価方法

- ・ 授業参加時の活動（平常点）40%
- ・ 授業後における課題（課題点）30%
- ・ 学期末試験（学業点）30%

フィードバック方法

- ・ 授業後に示される課題に対する自分なりの考えに対してのアドバイス
- ・ 授業中に行われるワークショップやディスカッションに対する総合的なアドバイス
- ・ 学期末試験に対するコメント

テキスト

ITパスポート最速合格術 技術評論社 西 俊明

参考文献

- ・ 令和4-5年度版 ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 富士通エフ・オー・エム株式会社
- ・ 講義資料をクラスルームの添付
- ・ テーマに応じて、その都度紹介する

備考

- ・ 講義だけでなく、ワークショップやディスカッションなどの活動が多くあります。主体的に参加してください。
- ・ 知識の集約だけでなく、知識の活用をメインにします。考える意識を持って参加してください。
- ・ 論文など、自分の考えを著す課題があります。自分なりの意見をもって講義に臨んでください。
- ・ 授業計画は、履修者数や進度によって変わる可能性があります。

授業科目名 (つくば)A I ・ データサイエンス概論① (13315301)
担当教員名 <small>専任非常勤講師</small> 丸山雅貴
学部・学科 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
学期 後期
単位数 2単位
授業形態 講義・演習
履修年次(履修開始可能年次) 1年
曜日時限 金曜1時限

授業の到達目標
到達目標: 今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付ける。
履修目標: 数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになる。

事前・事後学習
事前学習として、授業で出された学習課題やグループワークに向けた準備 (3時間程度)、事後学習として、授業内容のまとめ、質疑などで示された検討事項、レポートに向けた資料検索など (2時間程度) を行うこと。

授業概要
この科目では、データ・A I 活用領域の広がりを理解し、それらを活用する価値や限界を知り、日常生活や社会、組織でどのように使われているかを学ぶ。そして、データ・A I のモラル・倫理・リスク・脅威の理解を深め、適切に利用することを意識して、知識・スキルの重要性を理解できるようになる。また、データの特徴を読み解き、適切な可視化手法を選択し、他者にデータを説明でき、不適切に作成されたグラフや数字に騙されないスキルを身につける。

履修条件
A I ・ データサイエンス関連分野に関心を持つとともに、主体的に授業へ参加できること。 一部の授業においてグループワークを実施するため、協調して活動へ参加する必要がある。

人材育成のためのキーワード
コミュニケーション能力/協調性,自己表現力/自己分析力,問題発見力/問題解決力,実行力/チャレンジ精神,情報スキル

アクティブラーニングの要素
ディスカッション,グループワーク,プレゼンテーション,実習

実務家教員による講義の有無
無

対象資格

授業ナンバリング

科目等履修生・授業公開受入可否
受入不可

授業計画				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回</td> <td>社会におけるデータ・A I 利活用 社会で起きている変化</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業計画	1回	社会におけるデータ・A I 利活用 社会で起きている変化
回数	授業計画			
1回	社会におけるデータ・A I 利活用 社会で起きている変化			

回数	授業計画
2回	社会で活用されているデータ 私たちの身近にあるビッグデータ
3回	データとA Iの活用領域 サプライチェーンにおけるビッグデータとA I
4回	データ・A I活用のための技術 データ解析と可視化の手法
5回	データ・A I活用の現場 データ科学のサイクル
6回	データ・A I活用の最新動向 A Iを活用したビジネスモデル
7回	データ・A I活用に関するグループワーク ビッグデータによる地域課題の解決
8回	データリテラシー データの種類
9回	データを説明する データ表現
10回	データを扱う データの取得と集計
11回	データ・A Iを扱う上での留意事項 ビッグデータ時代の倫理的・法的・社会的課題
12回	データを守る上での留意事項 A I時代のセキュリティ
13回	まとめ データ・A I活用に関するグループ発表

評価方法

授業への参加状況 50%, 各回の課題 20%, 最終レポート 30%

フィードバック方法

各回の課題への回答に対して、授業内で助言する場合がある。

テキスト

必要に応じて、適宜指示する場合がある。

参考文献

北川源四郎, 竹村彰通 (2024) 教養としてのデータサイエンス. 講談社

備考

- ・ 授業の順序は、状況に応じて変更する場合がある。
- ・ Google Classroomを使用し、ショートレポートや最終レポート等の提出を求める。
- ・ 提出された授業内の課題、ショートレポート等の内容をクラス内で共有し、フィードバック・相互評価を行うことがある。

2024 年度

教 務 生 活 便 覧



目 次

■ 学生生活に関するガイド

I. 大学の概要

1. 大学の沿革 5

II. 学生生活について

1. 各種手続きの窓口について 6
2. 担当教員制とその職務 6
3. オフィスアワー 6
4. キャンパス・アドバイザー 6
5. 学生相談 6
6. 合理的配慮が必要な学生の相談窓口について 7
7. 学生への連絡 7
8. 忘れ物等の取扱い 8
9. 通学定期券 8
10. 自動車・バイク通学 8
11. 学 割 9
12. 奨学金・授業料等減免等 9
13. 国の教育ローン (株) 日本政策金融公庫 11
14. 授業料等 11
15. 学生ロッカー 12
16. 民間アパート 12
17. アルバイト 12

III. 学籍に関すること

1. 学生証について 13
2. 学生の身分異動 13
3. 証明書等の交付 14

IV. 課外活動ガイド

1. 学生組織 16
2. 課外活動時の各種申請 16
3. スポーツ安全保険 18
4. 学内施設利用 18

V. 安全対策

1. 保健センター 19
2. 健康診断 19
3. 喫煙・飲酒 20
4. キャンパス・ハラスメントの防止と対策 20
5. 緊急時の避難場所 20
6. 悪徳商法等への注意 20
7. カルト宗教団体等の悪質な勧誘への注意 20
8. 学生保険 21

VI. 学内ICTガイド

1. 情報処理演習室の利用について 22
2. 学内無線LANについて 23
3. 学内ネットワークについて 23

4. Google Workspaceについて	24
5. Microsoft365について	24
VII. 就職ガイド	
1. キャリアセンターは、「ワン・ストップ窓口」	25
2. いつから準備すれば良いのか？	25
3. 履歴書（エントリーシート）は、あなたの「商品」PRパンフレット	26
4. 公務員を目指す学生の皆さんへ	26
5. 2通りのインターンシップ	26
6. 就職活動に役立つ授業科目とは？	26
VIII. 附属図書館利用ガイド	
1. 図書館の運営方針	28
2. 図書館の利用について	28
■履修に関するガイド	
I. 授業が始まる前に知っておくこと	
1. 単位について	30
2. 授業期間について	30
3. 卒業について	30
4. 授業について	32
5. 試験について	33
II. カリキュラムについて	
1. 科目構成と概要	37
2. 授業科目表	39
3. 科目の概要	44
4. 海外研修・留学について	48
III. 履修について	
1. 履修計画について	50
2. 履修モデル	51
3. 履修登録の流れ	62
4. 履修登録時の確認・注意事項	62
5. 既修得単位の認定について	63
6. 卒業延期制度について	63
7. 放送大学との単位互換協定について	64
■関連規則	
1. 日本国際学園大学学則	65
2. 日本国際学園大学教育課程及び履修方法に関する規程	63
3. 日本国際学園大学外国人留学生規程	79
■学内施設ガイド	
1. キャンパスマップ	81
2. 校舎案内図	82
3. 附属図書館案内図	84
4. 体育館案内図	85
5. 課外活動共用棟案内図	86

別表1 経営情報学部ビジネスデザイン学科

科目区分		授業科目の名称	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
総合 教養 科目 群	教 養 科 目	世界史		2		選択必修 8単位	
		日本史		2			
		現代の思想		2			
		文化の考え方		2			
		地理学		2			
		社会と科学技術		2			
		環境科学		2			
		地球と資源		2			
		日本国憲法		2			
		法律の基礎		2			
		政治の基礎		2			
		経済の基礎		2			
		会計の基礎		2			
		心理学		2			
		健康論		2			
		社会学		2			
		コンピュータ言語入門		2			
		論理的思考と文章作成		2			
		LA Humanities A		2			
		LA Humanities B		2			
		LA Humanities C		2			
		LA Social sciences A		2			
		LA Social sciences B		2			
		LA Social sciences C		2			
		LA Natural sciences A		2			
		LA Natural sciences B		2			
		LA Natural sciences C		2			
特別教養講座A		1					
特別教養講座B		1					
外国 語 科 目	外 国 語 科 目	EAP Basic1	4			必修 8単位	
		EAP Basic2	4				
		EB Reading and Writing	4				ILAコース 必修科目
		EB Listening and Speaking	4				ILAコース 必修科目
		EB Communication Strategies		2		ILAコース 推奨科目	
		EB Effective Presentation Skills		2		ILAコース 推奨科目	
		EB Integrating English Grammar into Communication		2		ILAコース 推奨科目	
		EB Reading, Writing and Critical Thinking		2		ILAコース 推奨科目	
		Study Abroad Preparation		2		ILAコース 必修科目	
		EI Enhanced Speaking Skills		2		必修 8単位	
		EI Enhanced Writing Skills		2			
		EI Enhanced Reading Skills		2			
		留学生日本語A 1	2				留学生 必修科目
		留学生日本語B 1	2			留学生 必修科目	
		留学生日本語A 2	2			留学生 必修科目	
		留学生日本語B 2	2			留学生 必修科目	
		留学生日本語演習A		2		留学生 対象科目	
留学生日本語演習B		2		留学生 対象科目			
留学生日本語演習C		2		留学生 対象科目			
留学生日本語演習D		2		留学生 対象科目			
入門 科 目 群	入 門 科 目 群	基礎ゼミ1	2			必修 20単位	
		基礎ゼミ2	2				
		日本語リテラシーA	2				
		日本語リテラシーB	2				
		数学	2				
		情報基礎A	2				
		情報基礎B	2				
		情報倫理	2				
		情報と社会	2				
		多文化協働演習	2				
		経営学入門		2		選択必修 2単位	
		人文科学入門		2			
		情報・デザイン入門A		2			
		情報・デザイン入門B		2			
		社会科学入門		2			

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
共通科目	プレゼンテーション		2		
	データ分析と統計 1		2		
	データ分析と統計 2		2		
	ロジカルシンキング		2		
経営学専攻	経営戦略		2		選択 希望専攻科目から 24単位以上
	経営哲学		2		
	経営分析		2		
	経営行動科学		2		
	経済史		2		
	経営史		2		
	マーケティングA		2		
	マーケティングB		2		
	簿記会計1		4		
	簿記会計2		4		
	人的資源管理論		2		
	リーダーシップ論		2		
	経営財務		2		
	経営学概論		2		
	ファイナンス概論		2		
	国際経営論		2		
	経済学概論		2		
	中小企業論(起業論)		2		
	ビジネスプランニング		2		
	リスクマネジメント		2		
	経営管理論		2		
	ビジネスマネジメント特論A		2		
	ビジネスマネジメント特論B		2		
	ビジネスマネジメント特論C		2		
	会社法		2		
	知的財産権		2		
ビジネス数理1		2			
ビジネス数理2		2			
地域経営論		2			
専門基礎科目群	English through Movies		2		ILAコース 必修科目 ILAコース 必修科目
	English for Tourism		2		
	Discussion Skills A		2		
	Discussion Skills B		2		
	Basic Skills for TOEIC A		2		
	Basic Skills for TOEIC B		2		
	English for Academic Purposes		2		
	EA Advanced Speaking Skills		2		
	EA Advanced Reading Skills		2		
	EA Advanced Writing Skills		2		
	EA Communication and Leadership Skills		2		
	海外留学/Global Academic Study Programme		12		
	現地報告演習		2		
	国際コミュニケーションの基礎 1		2		
	国際コミュニケーションの基礎 2		2		
	異文化理解A/Crosscultural Understanding A		2		
	異文化理解B/Crosscultural Understanding B		2		
	国際文化論A/Intercultural Studies A		2		
	国際文化論B/Intercultural Studies B		2		
	地域研究A/Area Studies A		2		
	地域研究B/Area Studies B		2		
	地域研究C		2		
	人文科学特論A		2		
	人文科学特論B		2		
	人文科学特論C		2		
	Intermediate Skills for TOEIC (700~800)		2		
	Advanced Skills for TOEIC (800~)		2		
	表象文化論		2		
	デザイン史		2		
	メディアと文化		2		
	映像と文化		2		
	ファシリテーションの基礎		2		
ファシリテーションの実践		2			

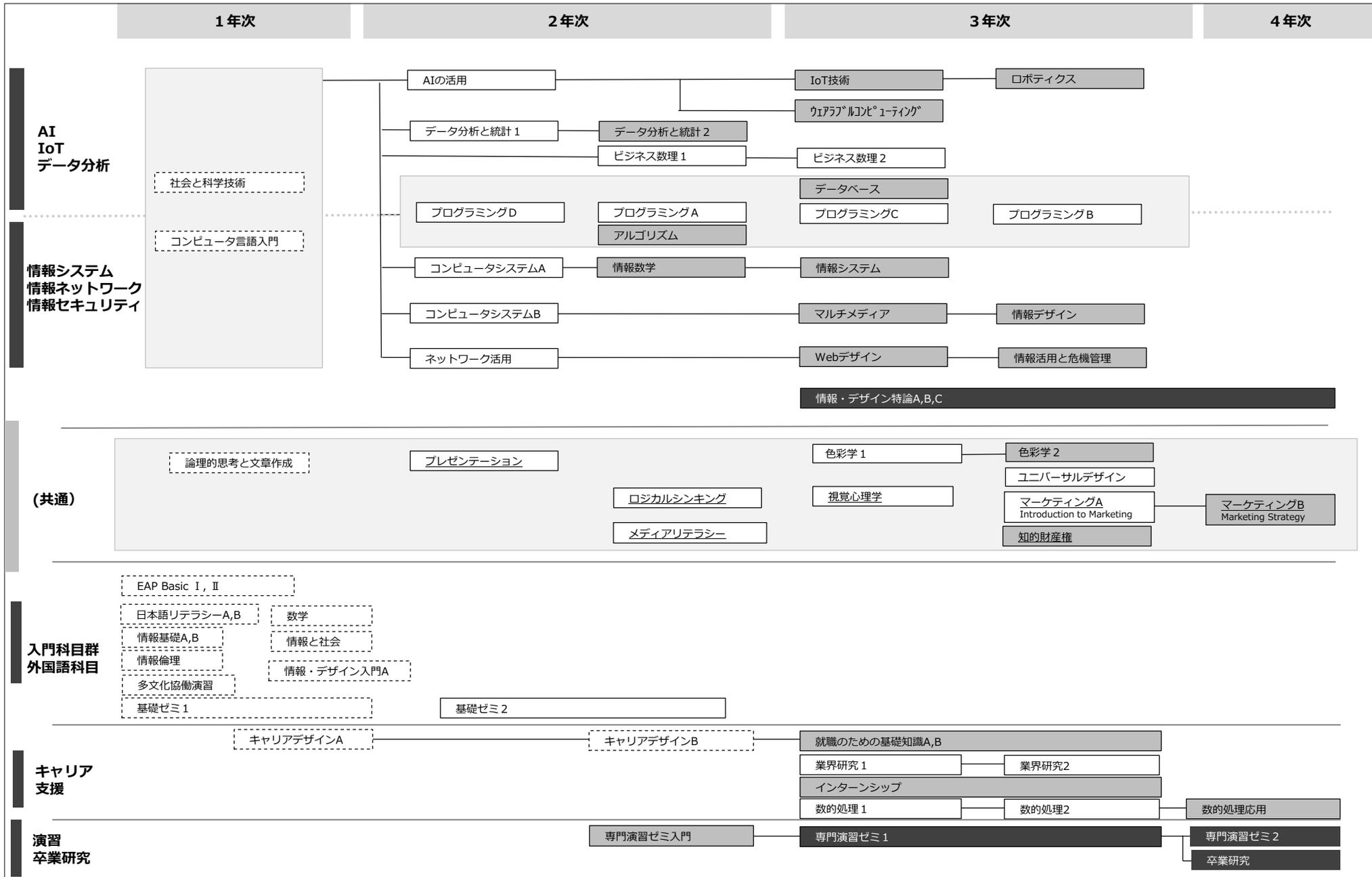
科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門基礎科目群	情報・デザイン専攻	デザイン基礎 A		2	
		デザイン基礎 B		2	
		イラストレーション 1		2	
		イラストレーション 2		2	
		グラフィックデザイン A		2	
		グラフィックデザイン B		2	
		DTP 1		2	
		DTP 2		2	
		CG概論		2	
		画像処理概論		2	
		3次元表現 1		2	
		3次元表現 2		2	
		アニメーション基礎		4	
		アニメと映像 A		2	
		アニメと映像 B		2	
		映像編集・制作 1		2	
		映像編集・制作 2		2	
		映像サウンド表現 A		2	
		映像サウンド表現 B		2	
		色彩学 1		2	
		色彩学 2		2	
		キャラクターデザイン		2	
		ユニバーサルデザイン		2	
		アニメーション史		2	
		プログラミング A		4	
		プログラミング B		4	
		プログラミング C		2	
		プログラミング D		2	
		アルゴリズム		2	
		データベース		2	
		Webデザイン		2	
		情報デザイン		2	
		情報システム		2	
		情報数学		2	
		情報活用と危機管理		2	
		ネットワーク活用		2	
		IoT技術		2	
		ウェアラブルコンピューティング		2	
		AIの活用		2	
		ロボティクス		2	
マルチメディア		2			
情報・デザイン特論 A		2			
情報・デザイン特論 B		2			
情報・デザイン特論 C		2			
情報・デザイン特論 D		2			
情報・デザイン特論 E		2			
情報・デザイン特論 F		2			
コンピュータシステム A		2			
コンピュータシステム B		2			

科目区分		授業科目の名称	単位数			備考
			必修	選択	自由	
専門基礎科目群	社会科学専攻	行政学		2		
		社会保障論		2		
		地方自治論		2		
		公共政策概論		2		
		行政法総論		2		
		行政法各論		2		
		政治学原論		2		
		民法1		2		
		民法2		2		
		地方の危機管理		2		
		多文化共生論		2		
		地域連携概論		2		
		行政実務特論A		2		
		行政実務特論B		2		
		行政実務特論C		2		
		行政教養1		2		
		行政教養2		2		
		行政教養3		2		
		法律実務研究		2		
		経済事情研究		2		
		行政実務研究		2		
		政策事情特論		2		
		社会科学特論A		2		
		社会科学特論B		2		
		社会科学特論C		2		
		国際関係論A/International relations theory		2		
国際関係論B/International relations theory		2				
ライフスパンと認知心理		2				
視覚心理学		2				
感性認知心理学		2				
メディアリテラシー		2				
専門発展科目群	専門発展科目	専門演習ゼミ入門		2		
		専門演習ゼミ1	4			
		専門演習ゼミ2	4			
	卒業研究		4		ILAコース 必修科目	
進路支援科目群	実践科目	サービス・ラーニング演習A		2		
		サービス・ラーニング演習B		2		
		インターンシップ		2		
		海外研修		2		
	キャリア形成	時事問題研究		2		
		業界研究1		2		
		業界研究2		2		
		文章理解応用1		2		
		数的処理1		2		
		文章理解応用2		2		
		数的処理2		2		
		数的処理応用		2		
		キャリアデザインA	2			
		キャリアデザインB	2			
就職のための基礎知識A	1					
就職のための基礎知識B	1					

} 必修 6単位

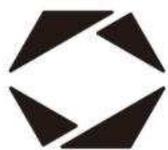
別表2 【授業内容が学外での現場実習中心となる科目】

科目区分		授業科目の名称	単位数			備考
			必修	選択	自由	
進路支援	実践科目	インターンシップ		2		
		海外研修		2		



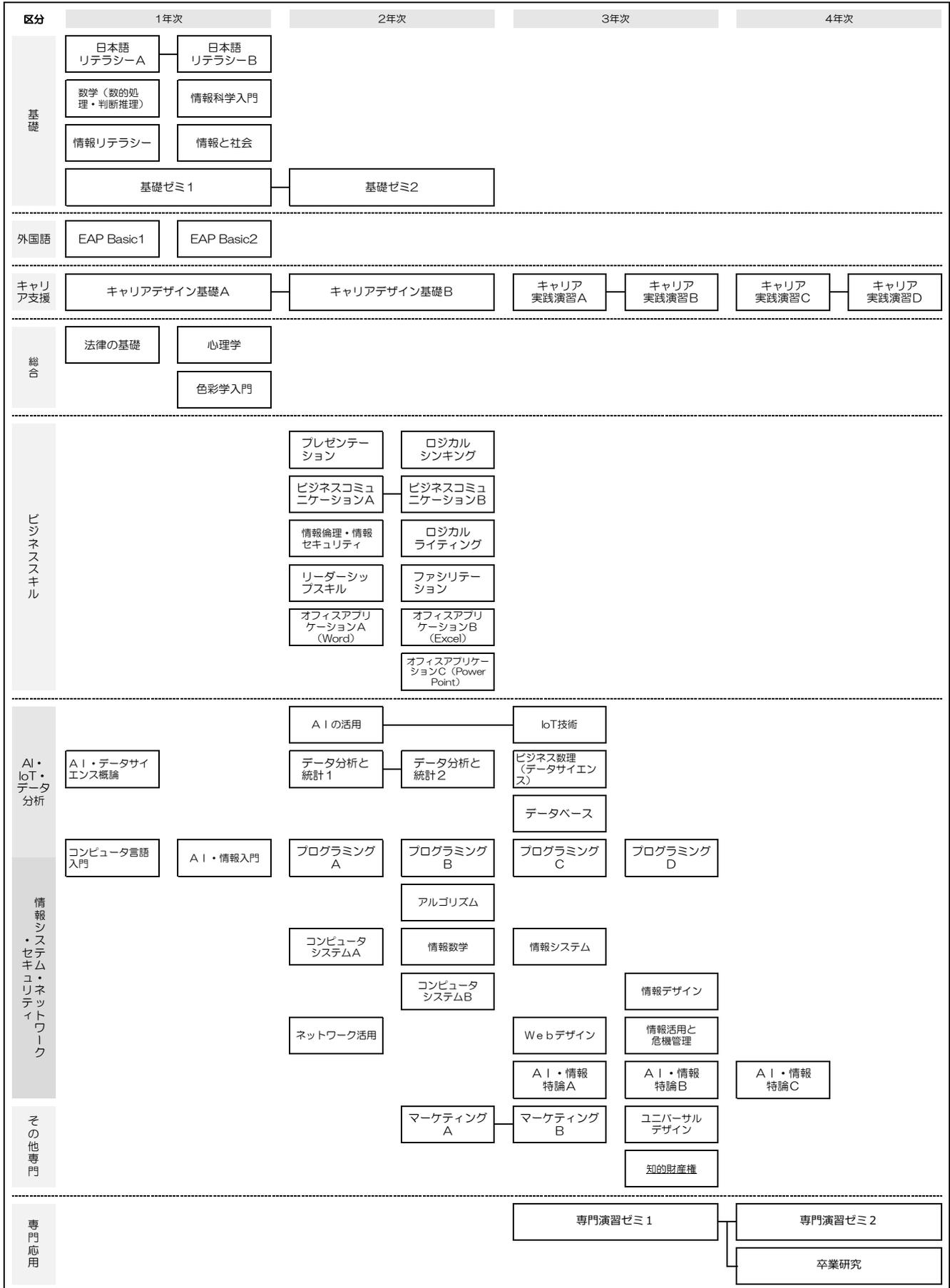
2025 年度

履修・学生生活
ガイドブック



日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

カリキュラムツリー AI・情報モデル



授業科目表 A1・情報モデル

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次・学期、必修・選択科目の区分								備考 ※印の授業科目の開講学期は、 時間割表で確認してください。	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋	春	夏・秋		
総合科目	世界史	2		○※							選択必修 8単位以上	
	日本史	2		○※								
	法律の基礎	2		○※								
	ファイナンシャル・プランニング	2		○※								
	簿記会計入門(簿記4級レベル)	2		○※								
	色彩学入門	2		○※								
	デザイン基礎A	2		○※								
	デザイン基礎B	2		○※								
	心理学	2		○※								
	コンピュータ言語入門	2		○※								
	A1・データサイエンス概論	2		○※								
特別教養講座A	1											
特別教養講座B	1											
外国語科目	EAP Basic1	4	●								必修 8単位	
	EAP Basic2	4		●								
	EAP Basic (next) 1	4				○※						
	EAP Basic (next) 2	4				○※						
	EB Communication Strategies	2	○									
	EB Effective Presentation Skills	2	○									
	EI Enhanced Speaking Skills	2		○								
	EI Enhanced Writing Skills	2		○								
	EA Advanced Speaking Skills	2			○							
EA Advanced Writing Skills	2				○							
基礎科目	基礎ゼミ1	2	●								必修 16単位	
	基礎ゼミ2	2		●								
	日本語リテラシーA	2	●									
	日本語リテラシーB	2		●								
	数学(数的処理・判断推理)	2	●									
	情報リテラシー	2	●									
	情報科学入門	2		●								
	情報と社会	2		●								
モデル入門科目	A1・情報入門	2		○						選択必修 2単位以上		
ビジネススキル科目	プレゼンテーション	2				○※					選択 10単位以上	
	データ分析と統計1	2				○※						
	データ分析と統計2	2				○※						
	ロジカルシンキング	2				○※						
	リーダーシップスキル	2				○※						
	ファシリテーション	2				○※						
	オフィスアプリケーションA (Word)	2				○※						
	オフィスアプリケーションB (Excel)	2				○※						
	オフィスアプリケーションC (Power Point)	2				○※						
	ビジネスコミュニケーションA	2				○※						
	ビジネスコミュニケーションB	2				○※						
	ロジカルライティング	2				○※						
情報倫理・情報セキュリティ	2				○※							
専門科目	現代ビジネスイノベーション系	マーケティングA	2				○				選択 24単位以上	
		マーケティングB	2				○		○			
		知的財産権	2						○			
		ビジネス数理(データサイエンス)	2						○			
		ユニバーサルデザイン	2						○			
	AI・情報系	プログラミングA	4				○					
		プログラミングB	4					○				
		プログラミングC	2						○			
		プログラミングD	2							○		
		アルゴリズム	2					○				
		データベース	2						○			
		Webデザイン	2						○			
		情報デザイン	2							○		
		情報システム	2						○			
		情報数学	2						○			
		情報活用と危機管理	2							○		
		ネットワーク活用	2					○				
		IoT技術	2						○			
		AIの活用	2					○				
		A1・情報特論A	2						○			
A1・情報特論B	2							○				
A1・情報特論C	2								○			
コンピュータシステムA	2						○					
コンピュータシステムB	2							○				
専門応用科目	専門演習ゼミ1	4							●		必修 8単位	
	専門演習ゼミ2	4								●		
	卒業研究	4								○		
海外留学関連科目	Study Abroad Preparation	2		○							自由科目の単位となります。	
	海外留学/Global Academic Study Programme	12				○						
	現地報告演習	2					○					
キャリア支援科目	キャリアデザイン基礎A	2	●								必修 12単位	
	キャリアデザイン基礎B	2		●								
	キャリア実践演習A	2				●						
	キャリア実践演習B	2					●					
	キャリア実践演習C	2						●				
	キャリア実践演習D	2							●			

日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進規程

(目的)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）では、データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるための数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）を設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成する。

(委員会)

第2条 前条の目的を達成するため、本学にデータサイエンス教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置き、教務委員会と連携して、次の各号に掲げる役割を担うものとする。

- (1) 教育プログラムの立案、実施に関する事項
- (2) 教育プログラムの普及に関する事項
- (3) 教育プログラムの年次自己点検・評価と改善に関する事項
- (4) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他教育プログラムに関する重要事項

2 委員会は、以下の委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 教務委員長
- (3) AI・情報系教員
- (4) その他、委員長が必要と認めた者

(委員長)

第3条 委員長は、委員の互選により選出する。

(自己点検責任者)

第4条 委員会は、教育プログラムの自己点検・評価を実施するため、委員長とは別に自己点検責任者を互選により選出する。

(対象の授業科目、単位数及び修了要件)

第5条 教育プログラムの対象となる授業科目、単位数及び修了要件は、委員会が別に定め、教授会の上を承を得て、学長が決定する。

(修了認定)

第6条 教育プログラムに該当する授業科目の可否は教授会が判定し、学長が認定する。

2 教授会の判定結果に基づき、委員会が教育プログラムの修了を確認し、学長が認定を行う。

(修了証の交付)

第7条 学長は、委員会の修了認定に基づき、教育プログラムを修了した学生に修了証を交付する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て教授会が承認し、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

日本国際学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム推進規程

(目的)

第1条 日本国際学園大学（以下「本学」という。）では、データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるための数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「教育プログラム」という。）を設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成する。

(委員会)

第2条 前条の目的を達成するため、本学にデータサイエンス教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置き、教務委員会と連携して、次の各号に掲げる役割を担うものとする。

- (1) 教育プログラムの立案、実施に関する事項
- (2) 教育プログラムの普及に関する事項
- (3) 教育プログラムの年次自己点検・評価と改善に関する事項
- (4) 教育プログラムの情報公開に関する事項
- (5) その他教育プログラムに関する重要事項

2 委員会は、以下の委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 教務委員長
- (3) AI・情報系教員
- (4) その他、委員長が必要と認めた者

(委員長)

第3条 委員長は、委員の互選により選出する。

(自己点検責任者)

第4条 委員会は、教育プログラムの自己点検・評価を実施するため、委員長とは別に自己点検責任者を互選により選出する。

(対象の授業科目、単位数及び修了要件)

第5条 教育プログラムの対象となる授業科目、単位数及び修了要件は、委員会が別に定め、教授会の上を承を得て、学長が決定する。

(修了認定)

第6条 教育プログラムに該当する授業科目の可否は教授会が判定し、学長が認定する。

2 教授会の判定結果に基づき、委員会が教育プログラムの修了を確認し、学長が認定を行う。

(修了証の交付)

第7条 学長は、委員会の修了認定に基づき、教育プログラムを修了した学生に修了証を交付する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て教授会が承認し、学長が決定する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	日本国際学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和 7 年度

取組概要

プログラムの目的

データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力を身に付けるためのプログラムを設置し、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養及び応用能力を持つ人材を育成すること。

修了要件

下記の3科目6単位の単位取得により、修了を認定する。

科目区分	科目	単位数
教養科目 (必修)	情報基礎A	2
	情報と社会	2
総合科目	AI・データサイエンス概論	2

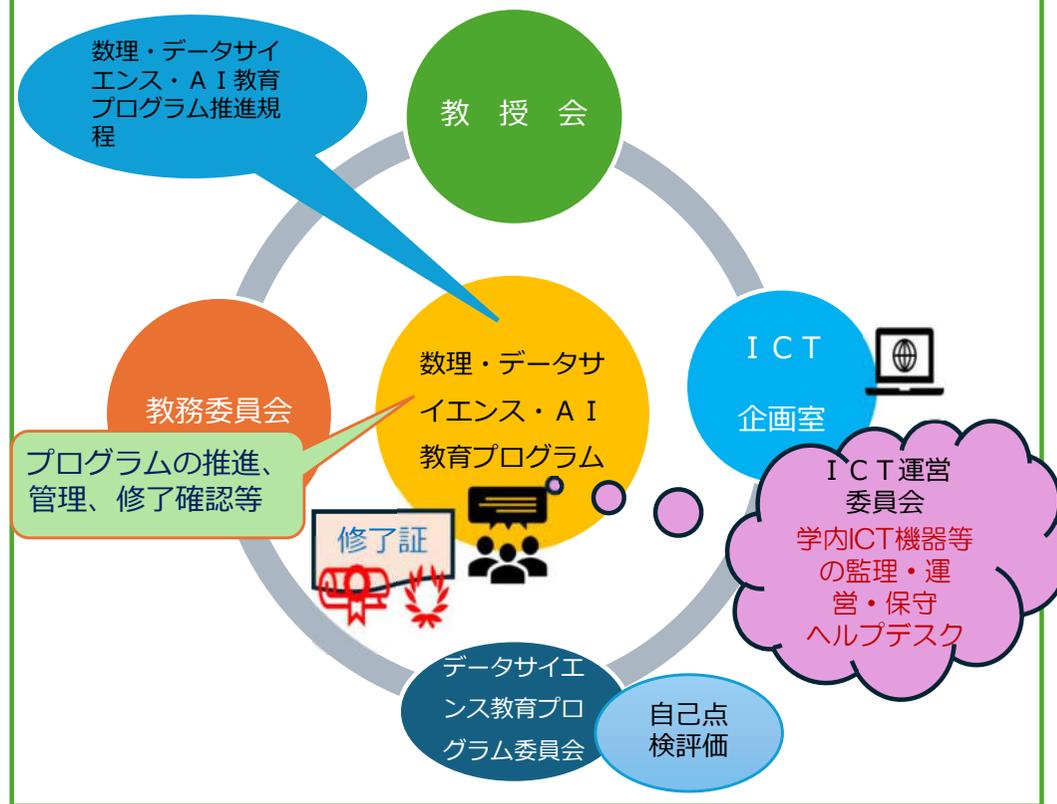
※ このほかにも、数理・データサイエンス・AI分野に関連した選択（オプション）の授業科目を多数開設し、学生の学習意欲に応じた学びを実現している。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム

実施体制

データサイエンス教育プログラム委員会を中心に、関係する部署等と連携し学生の支援を行う実施体制を構築している。



【身に着けることのできる能力】

データやAIを利活用する基礎的な素養の修得、課題解決のための基礎能力、専門分野への応用能力

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p>	<p>「情報基礎A」にて、「生成AIの活用と可能性1～ChatGPTの入門、活用方法～」として、AI最新技術の活用例について学ぶ。 「情報と社会」にて「起業と経営3～SWOT・3Cでビジネスモデルを考える～」として、AI等を活用した新しいビジネスモデルについて学ぶ。 「AI・データサイエンス概論」にて「データ・AI利活用の最新動向、AIを活用したビジネスモデル」として、基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデルについて、「社会におけるデータ・AI利活用、社会で起きている変化」として、ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット等への活用や、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化などの変化について学ぶ。</p>
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であったり、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p>	<p>「AI・データサイエンス概論」にて「データリテラシー、データの種類」として、調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータ、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データについて、また「社会で活用されているデータ、私たちの身近にあるビッグデータ」としてデータ作成（ビッグデータとアノテーション）について、「社会で活用されているデータ、私たちの身近にあるビッグデータ」として、生産、消費、文化活動などでのデータ・AI活用領域の広がりについて学ぶ。</p>
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>「情報基礎A」にて「生成AIの活用と可能性1～ChatGPTの入門、活用方法～」としてマルチモーダル（言語、画像、音声など）、生成AIの活用（プロンプトエンジニアリング）について、「生成AIの活用と可能性3～AI関連ソフトを用いた課題作成～」として、教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例について学ぶ。 「AI・データサイエンス概論」にて「データ・AI利活用のための技術、データ解析と可視化の手法」として、データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化、データ可視化：複合グラフ、2軸グラフや多次元、関係性、地図上、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化などについて、「データ・AI活用の現場、データ科学のサイクル」としてデータサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案）について学ぶ。</p>
<p>(4) 活用に当たった様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>「情報基礎A」にて「IT技術の要素・日常的に使用されるソフトウェアへの理解～Windowsやオフィスなどの基礎知識と理解、情報セキュリティの理解～」として情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性）について学ぶ。 「AI・データサイエンス概論」にて「データを守る上での留意事項、AI時代のセキュリティ」として、サイバーセキュリティについて、「データ・AIを扱う上での留意事項、ビッグデータ時代の倫理的・法的・社会的課題」として、倫理的・法的・社会的課題について学ぶ。</p>
<p>(5) 実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	<p>「AI・データサイエンス概論」にて「データリテラシー、データの種類」として、データの種類（量的変数、質的変数）、データの分布（ヒストグラム）と代表値（平均値、中央値、最頻値）、代表値の性質の違い、データのばらつき（分散、標準偏差、偏差値）、外れ値、相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）、観測データに含まれる誤差の扱い、打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータについて、「データを説明する、データ表現」としてデータ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図）について、「データを扱う、データの取得と集計」として、データの取得（機械判読可能なデータの作成・表記方法）、データの集計（和、平均）について学ぶ。</p>

数理・データサイエンス・A I 教育プログラム関連授業科目受講者数、単位修得者数等

令和6年度学生数 令和6年5月1日現在

学部・学科	学年 区分	1年	2年	3年	4年	合計
		男	88	38	47 (2)	111 (1)
経営情報学部 ビジネスデザイン学科	女	38	9	8	41	96
	計	126	47	55 (2)	152 (1)	380 (3)

※()は、休学者数を内数で示す。

令和6年度 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム構成科目

科目名	担当教員	クラス	履修者数	単位修得者数	単位修得率
情報基礎A	宗像 諭	④	121	108	89.26%
	パンタポーラ	①②			
	丸山 雅貴	⑤			
	山島 一浩	留①②			
	高藤 清美	留③			
情報と社会	宗像 諭	①	121	109	90.08%
	丸山 雅貴	②			
	谷本 茂明	留①②			

※人数は、令和6年度入学生のみ的人数を示す。

【参考】

令和7年度学生数 令和7年5月1日現在

学部・学科	学年 区分	1年	2年	3年	4年	合計
		男	73	84	33 (1)	57 (1)
経営情報学部 ビジネスデザイン学科	女	48	38 (2)	8	7	101 (2)
	計	121	122 (2)	41 (1)	64 (1)	348 (4)

令和7年度 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム構成科目

科目名	担当教員	クラス	履修者数		
			1年次	2年次	3年次以上
情報リテラシー	笹島 司	①②	40	5	0
		留①	21	0	0
	パンタポーラ	留②	24	4	0
		仙台	35	0	0
	情報と社会	丸山 雅貴	①②	40	5
留①②			45	2	0
仙台		35	0	0	
A I ・データサイエンス概論	丸山 雅貴	①②	50	7	0
		仙台	23	1	0